気象遭難対策講習会2016 レポート

2016/7/10(日曜日)、名古屋市/愛知県スポーツ会館において、気象遭難対策講習会2016を開催しました。
参加者は、総勢37名(愛知岳連会員:19名、愛知岳連会員外:6名、講師・役員など:12名)でした。
講師は、大矢康裕氏(気象予報士、ウェザーフロンティア所属、デンソー山岳部所属)にお願いしました。

第一部 基礎編では、山の天気の基本、地上天気図の見方と高層天気図の紹介、観天望気、インターネットを使った気象情報の活用法などについて、登山者の視点から、わかりやすく丁寧に教えていただきました。

第二部 応用編「悪天が予想される場合の行動シミュレーション実習(DIG)」は、面白くてとてもためになりました。「夏山縦走中の6人パーティー(新人2名含む)が悪天情報を入手した」と想定して「これからどう行動するか」を3つのグループに分かれて討議した後、発表しあいました。
普段から、悪天などに遭遇した時にどのように行動するかを考える訓練をしておくことは、いざという時に慌てないために、とても大切だなぁ・・・と実感しました。

第三部　今夏の天気の見通しではラーニャ現象の発生が予想されるため、以下の現象がおこりやすくなるそうです。
①太平洋側の山は、晴れる日が多く気温が高い
⇒行動は早出早着を心がけ、雷に注意

②日本海側の山は、梅雨明けが若干遅れる可能性がある
⇒梅雨前線の位置と動きに注意

③台風が接近すると、太平洋側の高気圧が弱まることがある
⇒台風の進路に注意する

◎夏山山行プランを考えるうえで、とても参考になりました。

遭難事故を他人事と思わず、自分事(自分ならばどのように対処するか)と考えることが、防災への第一歩です。
気象遭難は、気象の知識もさることながら、人の判断力・山行技術・基礎体力などが要因となっていることが多い。
日ごろから山で事故に遭わないように心がけて、登山を愉しみましょう。